



# まほろばの丘から



令和3年11月17日 文責 校長 江口 尋信

## 第36回姉妹校交流を実施しました

11月10日（水）、オンラインではありますが、韓国・百済初等学校との第36回姉妹校交流会を実施しました。本校は創立42年目を迎えますから、姉妹校交流は学校の創立後ほどなく始まった伝統ある行事ということになります。

姉妹校交流は、本校の4年生以上の児童（希望者）が韓国・百済初等学校を訪問する、翌年は韓国・百済初等学校の児童が本校を訪問するという、隔年で相互訪問を行う行事です。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今回も昨年度に引き続きオンラインで実施しました。海を隔てた韓国の子どもたちと画面越しではありますが、温かい雰囲気の中で交流することができました。



スクリーンに映し出された百済初等学校の子どもたち



韓国語で自己紹介する6年生

当日は、学校を代表して5・6年生が参加しました。6年生（実行委員）は総合的な学習の時間に学んだ太宰府市の主な史跡を紹介し、最後には「お会いできる日を楽しみにしています」というメッセージを送りました。百済初等学校の子どもたちは、学校で体験した日本の伝統的な遊びを紹介したり、日本語の歌を披露したりしました。韓国の子どもたちが話す日本語はなかなかいい発音で、大変驚きました。さらに、韓国の子どもたちは日本語で、本校の子どもたち（6年生・実行委員）は韓国語で自己紹介をしました。交流会の最後に、韓国の子どもたちと本校の5・6年生全員がいっしょに「アプロ」という韓国の歌を歌いました。気持ちを合わせ、楽しく歌う姿に感動を覚えました。

次年度に韓国を訪問することができるか分かりませんが、何か方法を工夫して歴史と伝統ある交流を絶やさないようにしていきたいと考えています。

## 嬉しいお手紙

先日、地域の方から嬉しいお手紙が届きました。ご紹介します。

「わたしは、〇〇区の□□と申します。突然のお手紙で失礼します。11月3日の午後のことです。私宅に『これは公園で拾ったのですが、こちらの物ではないですか。』と印鑑を届けてくれたのです。それで、転んだときにバックから飛び出たのだと分かりましたが、4人は遊びを中断して落とし主を探してくれたのです。どうしてここが分かったのか尋ねると、『上から1軒ずつ印鑑と同じ字の表札を探しながら来ました。』と答えてくれました。何という機転。私たちは感動しました。朝夕の登下校時の楽しげな子どもたちの声が聞こえてくると、安らぎをおぼえます。これからも西小の生徒さんたちが心身健やかに育ってくださることを心から願っております。」

大変元気が出るお手紙でしたので、ご紹介させていただきました。